

# 新武蔵野クリーンセンター（仮称）整備運営事業

## 審査講評

平成25年 3 月

新武蔵野クリーンセンター(仮称)事業者選定委員会

# 新武蔵野クリーンセンター（仮称）整備運営事業 審査講評

## - 目次 -

1 . はじめに .....	1
2 . 事業概要 .....	2
( 1 ) 事業名称 .....	2
( 2 ) 事業場所 .....	2
( 3 ) 事業目的 .....	2
( 4 ) 事業方式 .....	2
( 5 ) 施設概要 .....	2
( 6 ) 事業内容 .....	2
( 7 ) 事業期間 .....	3
3 . 審査方法等 .....	3
( 1 ) 入札方法 .....	3
( 2 ) 落札者決定手順 .....	3
( 3 ) 審査手順 .....	4
( 4 ) 委員会の審議・審査経過 .....	9
4 . 審査結果 .....	9
( 1 ) 資格審査 .....	9
( 2 ) 提案審査 .....	9
( 3 ) 応募者名の確認 .....	12
5 . 審査講評 .....	13
( 1 ) 非価格要素審査項目の講評 .....	13
( 2 ) 総評 .....	15

## 1.はじめに

武蔵野市（以下「市」という。）は、新武蔵野クリーンセンター（仮称）整備運営事業（以下「本事業」という。）を実施する民間事業者（以下「事業者」という。）を公正かつ公平に選定するため、新武蔵野クリーンセンター（仮称）事業者選定委員会（以下「委員会」という。）を設置した。

委員会では、平成23年10月から約1年半にわたり事業者の選定等に関する審議・審査を進めてきた。

この度、委員会における審議・審査を終えて最優秀提案者を選定したので、ここに審査講評を取りまとめるものである。

### 新武蔵野クリーンセンター（仮称）事業者選定委員会

委員長	大江 宏	（亜細亜大学経営学部教授）
副委員長	小島 紀徳	（成蹊大学理工学部教授）
委員	水谷 俊博	（武蔵野大学環境学部環境学科准教授）
委員	安井 龍治	（日本環境安全事業株式会社東京事業所副所長）
委員	荒井 喜久雄	（公益社団法人全国都市清掃会議技術部長）
委員	野本 修	（弁護士）
委員	名古屋 友幸	（武蔵野市財務部長）
委員	郡 護	（武蔵野市環境部長）

## 2. 事業概要

### (1) 事業名称

新武蔵野クリーンセンター（仮称）整備運営事業

### (2) 事業場所

武蔵野市緑町3丁目1番5号地内

### (3) 事業目的

本事業は、武蔵野クリーンセンター（以下「現施設」という。）のごみ処理設備が耐用年数を迎つつあることから建て替えるにあたり、市民参加方式により策定した「新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画」（平成23年7月武蔵野市）に基づき、安全かつ安心な新武蔵野クリーンセンター（仮称）（以下「本施設」という。）の整備及び運営について、民間事業者の経営能力及び技術的能力を活用することにより効率的かつ効果的に実施することを目的とする。

### (4) 事業方式

本事業は、市が所有する本施設の整備及び運営を一括して民間事業者を実施させるとともに、整備後20年間の長期複数年にわたり本施設の運営を包括的に委託する、いわゆるDBO（Design Build Operate デザイン ビルド オペレート）方式により実施する。

### (5) 施設概要

#### ア 新工場棟

新工場棟は、本施設のうち焼却施設（熱回収施設）、不燃・粗大ごみ処理施設、再利用する現施設の既存煙突の内筒及びこれらに関連する附帯施設から構成される。

項目	焼却施設（熱回収施設）	不燃・粗大ごみ処理施設
処理対象物	家庭系可燃ごみ、事業系可燃ごみ、不燃・粗大ごみ選別可燃ごみ	不燃ごみ、粗大ごみ
計画処理量	約30,607t/年	約2,184t/年
処理方式	ストーカ式全連続燃焼炉	破碎・選別方式
処理能力	120t/24h（60t/24h×2炉）	10t/5h

#### イ 新管理棟等

本施設のうち新管理棟、再利用する煙突の外筒部分の耐震補強部分、連絡通路及び関連する附帯施設から構成される。

### (6) 事業内容

事業者が実施する主な業務は以下の通りである。

#### ア 経営管理業務

本事業を長期複数年にわたり安定的に継続させるための運営事業者自らの経営管理業務

#### イ 施設整備業務

本施設を整備するために必要な次の業務

(ア) 設計業務

(イ) 建設業務

#### ウ 施設運営業務

本施設を運営するために必要な次の業務

(ア) 運転管理業務

(イ) 維持管理業務

(ウ) 施設運営業務期間終了後の市への引継ぎ業務

### (7) 事業期間

事業期間：事業契約締結日から平成49年3月31日までの約24年間  
施設整備期間：事業契約締結日から平成31年6月30日までの約6年間  
施設運営期間：新工場棟の引渡日の翌日から平成49年3月31日までの約20年間

## 3. 審査方法等

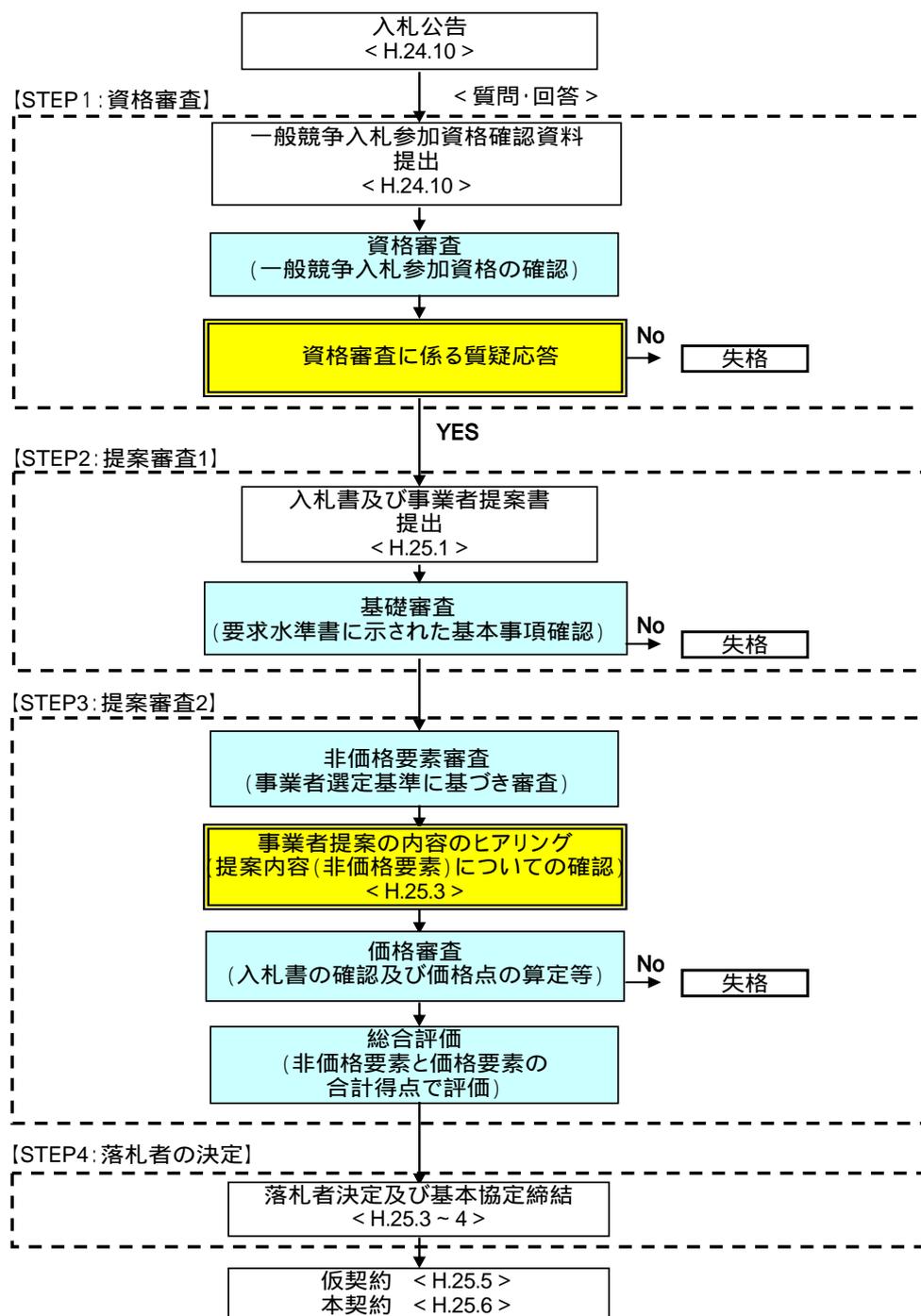
### (1) 入札方法

入札の方法は、地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の10の2第1項の規定に基づき総合評価一般競争入札により実施した。

### (2) 落札者決定手順

落札者決定の手順については、以下の図のとおりである。

図1 落札者決定及び契約締結までの流れ



### (3) 審査手順

#### ア 資格審査

資格審査は、入札参加希望者から提出された資格審査申請書等について、入札説明書に記載の「競争参加資格」を満たしていることを確認する。参加資格要件を満たしていない入札参加希望者は失格とする。

#### イ 提案審査

##### (ア) 基礎審査

資格審査を合格した入札参加者から提出された基礎審査資料について、要求水準書等入札資料に示された性能要件を満足するものであること、事業としての妥当性を有しているか等を確認する。確認内容は、以下のとおりである。

##### 提出書類の不備

提出書類の不足、体裁の誤り、書類間での記載の不整合がないなど、提案書として適切なものとなっていること。

##### 提案の要求水準の達成

基礎審査資料と要求水準書を対照させ、要求水準書に記載された満たすべき水準に達していること。

##### 契約条件の遵守

入札説明書等において記載した契約条件を順守していること。

##### 事業計画の妥当性

経営管理に係る基礎審査資料を確認し、設定した費用や収支が妥当であること。

##### (イ) 非価格要素審査

非価格要素審査の提案内容は、表 2 に示す提案内容に対する評価の視点及び配点とし、提案書に記載された内容について点数化による評価を行う。なお、非価格要素審査にあたっては、提案内容ヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価を行う。

表 1 提案内容に対する評価の視点及び配点

非価格要素審査の提案内容		評価の視点	配点	
<b>環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり</b>			<b>270</b>	
	<b>環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり</b>	・「環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり」を実現するための基本的な考え方や方策が、施設コンセプトを理解した具体的な提案となっているか（-1~5 の提案内容以外の提案がある場合には、その提案が具体的かつ有効な提案となっているか）。	<b>40</b>	
-1	主要プラント機器及び建築物等のライフサイクルコストを低廉化するための方策	-1-1 ライフサイクルコストを低廉化するための具体的な方策 ・主要プラント機器等を 35 年間使用するためのライフサイクルコスト低廉化のための具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・建築物等を 35 年間使用するためのライフサイクルコスト低廉化のための具体的かつ有効な方策が提案されているか。	<b>30</b>	<b>50</b>
		-1-2 維持管理に対する具体的な方策とその費用 ・主要プラント機器等についての維持管理に係る仕様が具体的に提案されているか。 ・建築物等（建築外装・内装仕上げ及び建築設備等）についての維持管理に係る仕様が具体的に提案されているか。 ・想定した維持管理に係る仕様について、具体的かつ適切な費用が提案されているか。	<b>20</b>	
-2	各設備の余裕率を最適化するための方策	・主要プラント機器等の設計容量、計画ごみ質範囲内の最大使用量及び余裕率について、優れた提案がなされているか。 ・ごみ量、ごみ質の変動に対する対応性（低負荷・高負荷特性）について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・処理可能なごみ質の範囲（処理能力曲線）について、優れた提	<b>30</b>	

非価格要素審査の 提案内容		評価の視点	配点	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>案がなされているか。</li> <li>安定稼働に対する処理プロセス・システムについて、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> </ul>		
-3	排ガス処理・公害防止性能等を確保するための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>入口側排ガス濃度上昇時の対応について具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>排ガス濃度に対する保証値について優れた提案がなされているか。また、提案された保証値を確保するための対応について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>騒音、振動、悪臭の保証値について優れた提案がなされているか。また、提案された保証値を確保するための対応について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>排ガスの削減量について、優れた提案がなされているか。また、提案された削減量について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>電気・機械計画により軽減されるリスクについて、具体的かつ有効な想定が行われているか。</li> </ul>	30	
-4	残渣性状の保持や焼却灰・飛灰の削減のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>残渣物の品質確保の方法及び基準について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>残渣発生量低減について、優れた提案がなされているか。また、提案された方法が具体的かつ有効な方策となっているか。</li> <li>処理不適物量の削減について、優れた提案がなされているか。また、提案された方法が具体的かつ有効な方策となっているか。</li> <li>金属類の回収率について、優れた提案がなされているか。また、提案された回収率の維持管理方法が具体的かつ有効な方策となっているか。</li> <li>金属類の保管、品質確保と引渡方法について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> </ul>	20	
-5	エネルギーの活用方策	<p>-5-1 再生可能エネルギー活用・省資源化等の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入した再生可能エネルギーの活用について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>省エネルギーに寄与する機器の採用等施設運営における省エネルギーについて、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>省資源に関する低負荷材料の使用について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>各ごみ質におけるごみ処理量あたりの用役使用量（消費電力 燃料（都市ガス） 水 薬剤）について、具体的かつ適切な想定が行われ、その抑制についても具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> </ul>	20	100
		<p>-5-2 高効率発電等の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高効率発電等を活用した総合的な熱利用効率向上について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>発電効率・熱回収率の向上方策、ごみ焼却廃熱の活用方策が具体的かつ有効な提案となっているか。</li> <li>ごみ焼却廃熱の活用について、全体のエネルギー効率を高める運転管理の方策が具体的な提案となっているか。</li> </ul>	30	
		<p>-5-3 常用コージェネレーションの内容及び運転管理に係る方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常用コージェネレーション設備の容量・効率等仕様が適切に選定されているか。</li> <li>常用コージェネレーション設備の運用計画が具体的かつ有効な提案となっているか。</li> </ul>	30	
		<p>-5-4 蒸気を利用せずに白煙を見えなくする方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蒸気を利用せずに白煙を見えなくする方策が具体的かつ有効な提案となっているか。</li> </ul>	20	
<b>災害に強い施設づくり</b>			120	
<b>災害に強い施設づくり</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「災害に強い施設づくり」を実現するための基本的な考え方や方策が施設コンセプトを理解した具体的な提案となっているか</li> </ul>	40	

非価格要素審査の 提案内容		評価の視点	配点	
		( -1~2 の提案内容以外の提案がある場合には、その提案が具体的かつ有効な提案となっているか )		
-1	施設・設備の防災に係る方策	-1-1 導入した耐震性能の考え方 ・建築物の耐震基準 1.25 を確保する方策が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・建築設備の耐震性能 ( 甲類 ) 確保の対策、方法が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・既存煙突の耐震補強の考え方、施工方法について、 -1-2 「煙突外筒デザインの考え方」に基づき、具体的に提案されているか。	30	50
		-1-2 常用コジェネレーション設備の非常時の運用方策 ・常用コジェネレーション設備導入による非常時の防災計画が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・常用コジェネレーション設備導入による非常時の運用方策が具体的かつ有効な提案となっているか。	20	
-2	災害時等のリスクへの対応方策	・プラント設備の管理運営及び日常作業での事故防止対策が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・災害が発生した場合の対応策や保険など備えが具体的かつ有効な提案となっているか。 ・安全衛生管理・防災管理の考え方 ( 体制、方策等 ) が具体的かつ有効な提案となっているか。	30	
<b>. 景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり</b>			<b>170</b>	
<b>景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり</b>		・「景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり」を実現するための基本的な考え方や方策が、施設コンセプトを理解した具体的な提案となっているか ( -1~3 の提案内容以外の提案がある場合には、その提案が具体的かつ有効な提案となっているか )	40	
-1	外観デザインを更に良くするための方策	-1-1 施設全体の外観デザインの考え方 ・「すべての面が“ オモテ ” になるデザイン」の工夫 ( 特に北面の見せ方、ライトアップ ) について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・「やわらかく “ やさしい ” デザイン」の工夫 ( テラコッタルーバー等を用いた外部仕上げの詳細及び色彩計画 ) について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・「いつでも “ 人の姿を感じる ” デザイン」 ( 開放的なデザイン ) の工夫について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・建築外装の設え、色彩計画などが、施設全体の外観デザインの考え方を有効にする方策として提案されているか。 ・新工場棟・新管理棟・連絡通路等をつなぐバランスの取れた建築デザイン、配置・動線の工夫が具体的かつ有効な提案となっているか。	30	50
		-1-2 煙突外筒デザインの考え方 ・3 案のデザイン案が、施設コンセプトやメンテナンス性を踏まえた、それぞれ特徴のある具体的なデザインが提案されているか。 ・1 案に絞り込んだ理由について、具体的かつ明快地提案されているか。	20	
-2	周辺環境に配慮した施設とするための方策	-2-1 使いやすい施設配置・平面計画 ・本施設 ( 新工場棟、新管理棟等 ) の施設配置と安全でスムーズな動線 ( 人と車両 ) 計画が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・本施設 ( 新工場棟、新管理棟等 ) の諸室の構成を含む平面計画の考え方が具体的かつ有効な提案となっているか。 ・緑地の配置 ( 屋上緑化を含む ) や外構計画、既存樹木の活用な	30	50

非価格要素審査の 提案内容		評価の視点	配点	
		ど、周辺環境に配慮したランドスケープの考え方が具体的かつ有効な提案となっているか。		
		-2-2 コンパクト設計の考え方 ・プラント機器等をコンパクト化することによる建物高さの低減（建屋の大きさの低減も含む）について優れた提案がなされているか。また、提案を実現するための方策に妥当性があり、具体的かつ有効な提案となっているか。	20	
-3	既存施設の安定稼働や周辺環境に配慮した施工に係る方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で効率的な施工計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>想定されている施工期間を遵守するための施工の工夫が具体的かつ有効な方策として提案されているか。また、コストダウンの方法（VE提案等）について具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>施工時の騒音や工事実施の時間帯など周辺環境への配慮について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> <li>建設廃棄物の削減と環境への寄与について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。</li> </ul>	30	
<b>.地域社会と暮らしに配慮した施設づくり</b>			<b>140</b>	
	<b>地域社会と暮らしに配慮した施設づくり</b>	・「地域社会と暮らしに配慮した施設づくり」を実現するための基本的な考え方や方策が、施設コンセプトを理解した具体的な提案となっているか（-1～3の提案内容以外の提案がある場合には、その提案が具体的かつ有効な提案となっているか）。	40	
-1	地元雇用促進のための方策	・施設整備業務及び施設運営業務において、地元雇用を図るための体制や雇用計画について、具体的かつ有効な方策が提案されているか。	20	
-2	本施設利用者へのサービス向上のための方策	-2-1 環境学習やワークショップ等のサービス提供 ・市民や見学者等のニーズに応じた環境学習やワークショップ等のサービス提供の内容・方策について、具体的かつ有効な提案がなされているか。 -2-2 見学者等へのサービス提供 ・要求水準書に定める見学者コースの考え方を実現するために、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・要求水準書に定める見学者コースのインテリアデザインの考え方を実現するために、具体的かつ有効な方策が提案されているか。 ・本施設利用者のセキュリティー・安全確保及びユニバーサルデザインについて、具体的かつ有効な方策が提案されているか。	20	50
-3	安定的な施設運営管理を実施するための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任ある業務遂行を図るための方策（構成企業の倒産等における方策を含む。）について、具体的かつ有効な提案がなされているか。</li> <li>施設運営業務を安定的に行うための方策について、具体的かつ有効な提案がなされているか。</li> <li>適切かつ確実な財務管理を行うための円滑な資金手当ての確保策が具体的かつ有効な提案となっているか。</li> </ul>	30	

点数化の方法については、表3に示す非価格要素審査の採点方法の5段階評価とし、非価格要素審査の配点は、700点（総合評価点は1,000点満点）とする。

表2 非価格要素審査の採点方法（5段階評価）

評価	評価	評価の点数化
A	当該評価項目において非常に優れている。	項目ごとの配点×1.00
B	当該評価項目において優れている。	項目ごとの配点×0.75
C	当該評価項目において、適切な提案がなされている。	項目ごとの配点×0.50
D	当該評価項目において、具体的かつ適切な提案が少ない。	項目ごとの配点×0.25
E	要求水準が満たされている。	項目ごとの配点×0.00

(ウ) 価格要素審査

価格要素審査は、入札書に記載された入札価格が予定価格の範囲内であり、かつ、当該入札価格のうち施設整備費用の額と施設運営費用に105分の110を乗じて得た額との合計額が債務負担行為の限度額の範囲にあることの確認を行い、入札価格を点数化する。

価格要素審査の点数化の方法については、以下の算定方法とし、点数は小数第2位を四捨五入して小数第1位まで求める。価格要素審査の配点は、300点とする。

$$\text{価格要素評価} = (\text{最低入札価格} / \text{入札価格}) \times \text{配点}$$

(I) 総合評価

総合評価は、「非価格要素審査」による評価点と「価格要素審査」による評価点を加えて総合評価点を算出した。総合評価点は、1,000点満点とする。

$$\text{総合評価点} = \text{非価格要素評価} + \text{価格要素評価}$$

#### (4) 委員会の審議・審査経過

委員会の審議・審査等の経過は次のとおりである。

表3 委員会の審議・審査等の経過

日時	内容
平成23年10月14日	第1回事業者選定委員会 (事業の骨子の確認、要求水準書作成の考え方の確認等)
平成23年12月15日	第2回事業者選定委員会 (実施方針(素案)、要求水準書(素案)の審議等)
平成24年2月23日	第3回事業者選定委員会 (実施方針(案)、要求水準書(案)の審議等)
平成24年3月30日	実施方針公表
平成24年5月7日	第4回事業者選定委員会 (実施方針に対する意見・質問等の確認、事業者選定基準の考え方の審議等)
平成24年6月25日	第5回事業者選定委員会 (事業者選定基準の審議等)
平成24年10月1日	入札公告
平成24年11月2日	一般競争入札参加資格確認結果の通知発送
平成24年11月15日	第6回事業者選定委員会 (応募参加状況報告、審査の進め方の審議等)
平成25年1月23日	入札書及び事業者提案書の提出受付
平成25年2月21日	第7回事業者選定委員会 (提案内容の確認、提案ヒアリング方法及びヒアリング事項の審議等)
平成25年3月6日	第8回事業者選定委員会 (提案内容ヒアリング、提案審査)
平成25年3月18日	開札
平成25年3月18日	第9回事業者選定委員会 (総合評価、最優秀提案者の選定、審査講評の審議)

## 4. 審査結果

### (1) 資格審査

市は、応募者から提出された一般競争入札参加資格確認資料について、資格審査を実施した。全ての入札参加希望者が競争参加資格を満たしていることを確認し、平成24年11月2日に入札参加希望者の代表企業へ競争参加資格確認結果の通知を発送した。

委員会は、平成24年11月15日の第6回委員会において、資格審査の結果について市から報告を受けた。なお、入札参加者の名称については、審議・審査の公正性・公平性を確保するため、最優秀提案者の選定が終わるまで、委員会には企業名を匿名としたグループ名のみが示された。

グループ名は、「こぶし」グループ及び「はなみずき」グループとした。

### (2) 提案審査

#### ア 基礎審査

市は、資格審査を合格した入札参加者から提出された基礎審査資料について、全ての入札参加者の提案が要求水準書等入札資料に示された性能要件を満足するものであり、かつ事業としての妥当性を有していることを確認した。

委員会は、平成25年2月21日の第7回委員会において市から基礎審査の報告を受け、内容を確認した。

#### イ 非価格要素審査

委員会は、平成25年3月6日の第8回委員会において、各入札参加者から提出された非価格要素審査の提案内容について、「事業者選定基準」に基づき、5段階評価の得点化法による非価格要素審査を行い、評価・点数を決定した。

表4 非価格要素審査結果

非価格要素審査の提案内容			配点		こぶし		はなみずき	
					評価	点数	評価	点数
<b>環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり</b>			270					
<b>環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり</b>			40		C	20.0	B	30.0
-1	主要プラント機器及び建築物等のライフサイクルコストを低廉化するための方策	-1-1 ライフサイクルコストを低廉化するための具体的な方策	30	50	B	22.5	B	22.5
		-1-2 維持管理に対する具体的な方策とその費用	20		C	10.0	B	15.0
-2	各設備の余裕率を最適化するための方策		30		C	15.0	B	22.5
-3	排ガス処理・公害防止性能等を確保するための方策		30		B	22.5	B	22.5
-4	残渣性状の保持や焼却灰・飛灰の削減のための方策		20		B	15.0	B	15.0
-5	エネルギーの活用方策	-5-1 再生可能エネルギー活用・省資源化等の方策	20	100	C	10.0	B	15.0
		-5-2 高効率発電等の方策	30		B	22.5	C	15.0
		-5-3 常用コジェネレーションの内容及び運転管理に係る方策	30		C	15.0	B	22.5
		-5-4 蒸気を利用せずに白煙を見えなくする方策	20		B	15.0	C	10.0
<b>災害に強い施設づくり</b>			120					
<b>災害に強い施設づくり</b>			40		C	20.0	C	20.0
-1	施設・設備の防災に係る方策	-1-1 導入した耐震性能の考え方	30	50	B	22.5	C	15.0
		-1-2 常用コジェネレーション設備の非常時の運用方策	20		C	10.0	B	15.0
-2	災害時等のリスクへの対応方策		30		C	15.0	C	15.0
<b>景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり</b>			170					
<b>景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり</b>			40		B	30.0	C	20.0
-1	外観デザインを更に良くするための方策	-1-1 施設全体の外観デザインの考え方	30	50	B	22.5	C	15.0
		-1-2 煙突外筒デザインの考え方	20		B	15.0	C	10.0
-2	周辺環境に配慮した施設とするための方策	-2-1 使いやすい施設配置・平面計画	30	50	B	22.5	B	22.5
		-2-2 コンパクト設計の考え方	20		B	15.0	C	10.0
-3	既存施設の安定稼働や周辺環境に配慮した施工に係る方策		30		C	15.0	C	15.0
<b>地域社会と暮らしに配慮した施設づくり</b>			140					
<b>地域社会と暮らしに配慮した施設づくり</b>			40		B	30.0	B	30.0
-1	地元雇用促進のための方策		20		C	10.0	C	10.0

非価格要素審査の提案内容			配点		こぶし		はなみずき	
					評価	点数	評価	点数
-2	本施設利用者へのサービス向上のための方策	-2-1 環境学習やワークショップ等のサービス提供	20	50	B	15.0	C	10.0
		-2-2 見学者等へのサービス提供	30		B	22.5	C	15.0
-3	安定的な施設運営管理を実施するための方策		30		C	15	C	15.0
<b>合計</b>			700			<b>447.5</b>		<b>427.5</b>

#### ウ 価格要素審査

平成25年3月18日、各入札参加者の立会いのもと市が開札を行い、入札金額を確認した。いずれの入札金額も、予定価格を超えていないこと、債務負担行為の限度額を超えていないこと、低入札基準調査価格を下回っていないことが確認された。

委員会は、同日の第9回委員会において市から開札結果の報告を受け、事業者選定基準に基づき価格要素を審査し点数化を行った。

表5 価格要素審査結果

区分	配点	こぶしグループ	はなみずきグループ
入札金額（税込）		20,475,000,000 円	21,945,000,000 円
価格要素評価点	300	300.0	279.9

#### エ 総合評価

委員会は、イの「非価格要素審査」による点数とウの「価格要素審査」による点数を加えて総合評価点を算出し、最も点数の高い「こぶし」グループを最優秀提案者として選定した。

表6 総合評価結果

区分	配点	こぶしグループ	はなみずきグループ
非価格要素評価点	700	447.5	427.5
価格要素評価点	300	300.0	279.9
総合評価点	1,000	747.5	707.4

### (3) 応募者名の確認

最優秀提案者の選定後、委員会は市より応募者名が明記されている提案書（正本）の提示を受け、「こぶし」グループ及び「はなみずき」グループの入札参加者名を確認した。

表7 入札参加者名

区分	こぶしグループ	はなみずきグループ
代表企業	荏原環境プラント株式会社 営業本部	JFEエンジニアリング株式会社
構成企業	鹿島建設株式会社	大成建設株式会社東京支店 JFE環境サービス株式会社 株式会社環境デザイン研究所

以上より、委員会は、荏原環境プラント株式会社営業本部を代表企業とする「こぶし」グループを市長に報告する最優秀提案者として決定した。

## 5 . 審査講評

### ( 1 ) 非価格要素審査項目の講評

非価格要素審査の提案内容		講評	
<b>環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり</b>			
<b>環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされていた。</li> <li>・「はなみずき」グループの提案書については、実績を踏まえた安全・安心な施設づくりについて丁寧に説明されている点を優れていると評価した。</li> </ul>	
-1	主要プラント機器及び建築物等のライフサイクルコストを低廉化するための方策	-1-1 ライフサイクルコストを低廉化するための具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに優れた提案がなされており、両グループの長期にわたる基本性能の担保と低廉化方策の提案を評価した。</li> </ul>
		-1-2 維持管理に対する具体的な方策とその費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされていた。</li> <li>・「はなみずき」グループについては、長期にわたるライフサイクル計画及び実績に基づく詳細な維持管理費用の提案を優れていると評価した。</li> </ul>
-2	各設備の余裕率を最適化するための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされていた。</li> <li>・「はなみずき」グループについては、余裕をもった各プラント設備容量、ごみピット容量の提案を優れていると評価した。</li> </ul>	
-3	排ガス処理・公害防止性能等を確保するための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに優れた提案がなされており、かつ低空気比設計における環境負荷低減が図られていた。</li> <li>・「こぶし」グループについては、重曹を使用した高度な乾式処理システムの提案を優れていると評価した。</li> <li>・「はなみずき」グループについては、消石灰・苛性ソーダを使用した安定した半乾式処理システムの提案を優れていると評価した。</li> </ul>	
-4	残渣性状の保持や焼却灰・飛灰の削減のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに優れた提案がなされていた。</li> <li>・「こぶし」グループについては、乾灰残さ量の低減の提案を優れていると評価した。</li> <li>・「はなみずき」グループについては、アルミ類等の高い金属類回収率の提案を優れていると評価した。</li> </ul>	
-5	エネルギーの活用方策	-5-1 再生可能エネルギー活用・省資源化等の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされていた。</li> <li>・「はなみずき」グループについては、電気・都市ガス使用量の低廉化方策等の提案を優れていると評価した。</li> </ul>
		-5-2 高効率発電等の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされており、熱利用効率向上を図るための有効な操炉計画の提案を評価した。</li> <li>・「こぶし」グループについては、高温高圧ボイラと高い発電効率・熱回収率の提案を優れていると評価した。</li> </ul>
		-5-3 常用コージェネレーションの内容及び運転管理に係る方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされていた。</li> <li>・「はなみずき」グループについては、多くの具体的な緊急時対策の提案を評価した。</li> </ul>
		-5-4 蒸気を利用せずに白煙を見えなくする方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされていた。</li> <li>・「こぶし」グループについては、白煙防止策等の提案を優れていると評価した。</li> </ul>
<b>災害に強い施設づくり</b>			
<b>災害に強い施設づくり</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・両グループともに適切な提案がなされており、両グループの具体的な施設コンセプト及び追加提案を評価した。</li> </ul>	

非価格要素審査の提案内容			講評
-1	施設・設備の防災に係る方策	-1-1 導入した耐震性能の考え方	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、トラス構造を用いて柱を無くしたプラットホームの構造モデル等の提案を優れていると評価した。
		-1-2 常用コジェネレーション設備の非常時の運用方策	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「はなみずき」グループについては、常用コジェネレーション設備の非常時の防災計画を具体化した、的確な提案を優れていると評価した。
-2	災害時等のリスクへの対応方策		・両グループともに適切な提案がなされており、両グループの災害時等におけるリスクの最小化に向けた具体的な提案を評価した。
<b>景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり</b>			
<b>景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり</b>			・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、「武蔵野の雑木林をイメージした外観デザイン」のコンセプトを優れていると評価した。
-1	外観デザインを更に良くするための方策	-1-1 施設全体の外観デザインの考え方	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、どの面から見てもスカイラインが揃った外観デザインの提案を優れていると評価した。
		-1-2 煙突外筒デザインの考え方	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、外観デザインとの調和を図った煙突デザインの提案を優れていると評価した。
-2	周辺環境に配慮した施設とするための方策	-2-1 使いやすい施設配置・平面計画	・両グループともに優れた提案がなされており、両グループの歩車動線を分離した安全性に配慮した提案を評価した。
		-2-2 コンパクト設計の考え方	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、建物高さ・延べ面積・水平投影面積を大幅に抑えたコンパクト設計の提案を優れていると評価した。
-3	既存施設の安定稼働や周辺環境に配慮した施工に係る方策		・両グループともに適切な提案がなされており、両グループの安全で効率的な施工計画等の提案を評価した。
<b>地域社会と暮らしに配慮した施設づくり</b>			
<b>地域社会と暮らしに配慮した施設づくり</b>			・両グループともに優れた提案がなされており、両グループの具体的な施設コンセプト及び追加提案を評価した。
-1	地元雇用促進のための方策		・両グループともに適切な提案がなされており、両グループの地元雇用に係る具体的な提案を評価した。
-2	本施設利用者へのサービス向上のための方策	-2-1 環境学習やワークショップ等のサービス提供	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、多くのイベントやワークショップ、ITを駆使した提案等を優れていると評価した。
		-2-2 見学者等へのサービス提供	・両グループともに適切な提案がなされていた。 ・「こぶし」グループについては、臨場感を体感することができる見学者コース等の提案を優れていると評価した。
-3	安定的な施設運営管理を実施するための方策		・両グループともに適切な提案がなされており、両グループの具体的な構成員の役割の明確化と多くの融資枠の設定等の提案を評価した。

## (2) 総評

本事業は、市の唯一の廃棄物中間処理施設である現施設の建替えにあたり、最新の技術の粋を集めた最善の施設を整備し、将来にわたって安全・安心に、効率的かつ適切な施設運営を行うことを目的としたものである。さらに市は、この建設地を含めた地域全体の魅力を高め、市民にとって誇りとなるような施設づくりを目指してきたところである。

本事業の特徴として、新工場棟の建設から新管理棟の竣工までの工事期間が長く、工事予定地が狭小であって、工事内容も多岐にわたり、また、整備・運営段階において地域住民との丁寧な対話が重視されることなどがある。そのため、提案内容には高度で幅広い専門性と技術力が必要とされるだけでなく、市民の思いや地域の特性などを正しく理解することが求められるものであった。

こうした状況の中、入札に参加した2グループによる提案は、ともに本事業の趣旨・目的や市の状況を十分に理解し、豊富なノウハウと高い能力、熱意、創意工夫が反映された非常に優れた内容であり、市の示した要求水準を上回り、大いに期待に応えるものであった。

「こぶし」グループの提案は、最新技術を用いた焼却プラントシステムを採用し、高い発電効率と焼却プラントのコンパクト化を図るものであった。それにより、建物の高さや面積を大幅に抑え、建物全体のコンパクト化につなげており、優れた外観デザインが高く評価された。全体的には、特にエネルギー効率と周辺環境・地域社会への配慮の面において積極的で工夫に富んだ優れた提案であったといえる。

一方、「はなみずき」グループは、特に「環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり」に関する事項において、豊富な実績に裏付けられた技術力と信頼性の高さ、計画の具体性などから、多くの項目において高い評価となった。またその他の事項においても、実績に基づく実効性の高い提案がなされており、全体として、多くの実績と根拠に基づく信頼性と安定性について高く評価された。

委員会では、提案内容について厳正なる審査を進めた結果、非価格要素審査の得点及び価格要素審査の得点を合計した総合評価点で最も高い得点を獲得した「こぶし」グループ(代表企業：荏原環境プラント株式会社営業本部)を、最優秀提案者として選定するに至った。

両グループの提案は、異なる特長を持ちながらも、互いに遜色のない極めて優れた内容であり、作成には相当の労力を要したと推定される。短期間のうちにこのような提案をまとめあげた両グループに対して、深く敬意と謝意を表したい。

今後、市と「こぶし」グループとは事業契約を締結し、事業に着手していくことになる。市及び「こぶし」グループは、入札における競争性や公正性を妨げない範囲において、本事業をより質の高いものとするために具体的な協議を進め、対等の立場で契約手続きを行い、事業の円滑な推進に万全を図られたい。

なお、委員会の審議において、「こぶし」グループの提案内容について、以下のような配慮すべき事項が挙げられた。これらの配慮事項については、「こぶし」グループは市と十分な協議を行い、真摯な対応に努めていただきたい。

本施設は長期にわたって想定外の停止が許されない、市民生活を支える重要な施設であるため、提案された最新技術に関する熟度を自ら高め、長期のメンテナンスにも耐えうる「環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり」を進めること。

本施設の特徴の一つである常用コジェネレーションの運用方法をはじめとした緊急時の対応方策について市と十分な協議を行い、「災害に強い施設づくり」を進めること。

「景観及び建築デザイン等に配慮した施設づくり」について、提案されたコンパクト設計に基づき、質の高い外観・内観デザインの実現を図るとともに、高いブ

ラント性能とメンテナンス性を兼ね備えた施設づくりを進めること。  
市民及び見学者がこの施設に来てよかったと思える、日々来ても楽しめる「地域社会と暮らしに配慮した施設づくり」を進めること。  
事業期間においては、地域住民との対話を重視し、丁寧な説明と対応を心がけ、市民から喜ばれる施設づくりを進めること。  
新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会での議論を踏まえて市が提示した建築デザイン方針を実現するために、地域住民と協調した施設づくりを進めること。  
今後の事業期間にわたり、質の高い公共サービスを提供するとともに、本施設は近隣公共施設へのエネルギー供給センターとして有効かつ重要なエネルギー源と位置づけられていることから、市と連携して、今後の電力・エネルギー情勢等に的確に対応したスマート（賢い）かつ柔軟な施設づくりに努めること。

最後に、本事業が、これまで現施設において積み重ねられてきた市民参加とパートナーシップの蓄積を継承し、市民・市・事業者の相互の理解と信頼を促進しながら、より良いまちづくりに発展していくことを期待したい。

平成25年 3月

新武蔵野クリーンセンター(仮称)事業者選定委員会 委員長 大江 宏